



「リハビリテーションレジデントマニュアル、第4版」

木村 彰男【監修】 辻 哲也【編集】

水野 勝広、村岡 香織、石川 愛子、川上 途行【編集協力】

B6変型・頁432 2022年7月 定価：4,620円（本体4,200円＋税10%）[ISBN978-4-260-04755-5]
医学書院刊

安保 雅博 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学教室

1990年に大学を卒業しリハビリテーション医学を志した当時の私にとって最大の問題は、臨床に根ざしたリハビリテーション医学に関する良い教科書がほとんどなかったということでした。当然ながらマニュアル的なものは皆無でありました。焦った血気盛んな若いときの私は、リハビリテーション医学をどのように勉強したらいいのかと上司にしつこく相談していました。上司からは「自分が勉強したやり方で良かったらどうぞ」と言われ、おおよそ100編のバイブル的な英語論文をA4表裏にまとめてある全て英語の手書きのファイルを渡され、「コピーしてもいいけどしっかりこれを読んで、もちろん原著も読んで同じようにまとめて勉強するようにしなさい」と言われたのを昨日のこのように覚えています。

本書の初版発行は1994年でした。「こんなにまとまったものが作られて出版されたんだ」と当時やけに感動しました。もちろん、すぐに日常臨床や認定医試験、専門医試験対策に大活躍させたことはいうまでもありません。この度、第4版として出版された本書を手に取りながら、1994年の初版に比べると随分厚くなり、ちょっと重くなったけど、内容が充実したなと思いました。

リハビリテーション医学・医療の対象はとても幅広いものです。赤ん坊から超高齢者まで。超急性期から生活期まで。予防医学の領域から障害軽度、重度まで。治療はいうまでもなくケア的な要素も必要。ADLの評価やQOLの評価も必要。また、他の科の医師と大きく違い、行政的な知識もとても必要。本書は、こんな幅広い要望に対して、見事に全6章と付録で構成して答えを示してくれています。これほどの要点を凝縮させて、まとめ上げているのはなかなか見事であると感じます。「歴史ある慶應リハの叡智の結集ここにあり」と言っても過言ではありません。

第1章は総論として、「リハビリテーション医学・医療とは」について、わかりやすく整理されています。第2章は「リハビリテーション診断・評価」、第3章は「リハビリテーション治療」、第4章は「主な疾患のリハビリテーション診療」として42の項目を掲げています。第2章から第4章まで注目すべきポイントがまとめられ、臨床上のコツもそれぞれについて挙げられ、読み手に親切かつ有意義な構成になっています。第5章は「地域生活とリハビリテーション医療」、第6章は「リハビリテーション医療における医療倫理・感染対策・医療安全」、付録は「リハビリテーション医療に必要な基礎知識」が続きます。

執筆を担当された先生方は、現在、わが国の第一線で研究や診療に従事し、国内外の法制度を熟知されている方ばかりであります。本書は、医師を始めとして、リハビリテーションにかかわる全ての専門職の皆さまの座右の書として、ご活用していただけたと思います。